

医療功労賞に2人

長年にわたって地域の医療活動に貢献した人に贈られる「第47回医療功労賞」(読売新聞社主催、厚生労働省、日本テレビ放送網後援、損保ジャパン日本興亜協賛)の県受賞者に、柔道整復師で溝口接骨院(名古屋市中区)の院長、溝口英一さん(85)(同)と、理学療法士でかみなめ病院(同)のリハビリテーション科パート職員、前田勝彦さん(66)(岐阜県多治見市)が選ばれた。表彰式は7日、名古屋市中区の読売新聞中部支社で行われる。2人に受賞の喜びの声を聞いた。

高齢者向けに体操教室



運動機能向上の体操を教える溝口さん

柔道整復師

溝口英一さん 85

半世紀以上も柔道整復師を務めてきた。「賞をもらえるような者ではありませんよ」

と謙遜する。早稲田大学法学部に通うかわら、夜は東京都柔道接骨師会付属養成所(当時)で学び、いずれも1957年に卒業。父の雄三さんが営む接骨院に入って61年に柔道整復師の免

許を取得し、70年に院長を継いだ。

「この道では裕福になれないが、人から疎まれることはない。自分の技量を過信せず、毎日勉強せよ」との父の教えを守り、地域医療に尽力してきた。親子三代で通う患者もいるといい、「地域のおじいちゃん」として親しまれている。名古屋市中区介護予防事業の一

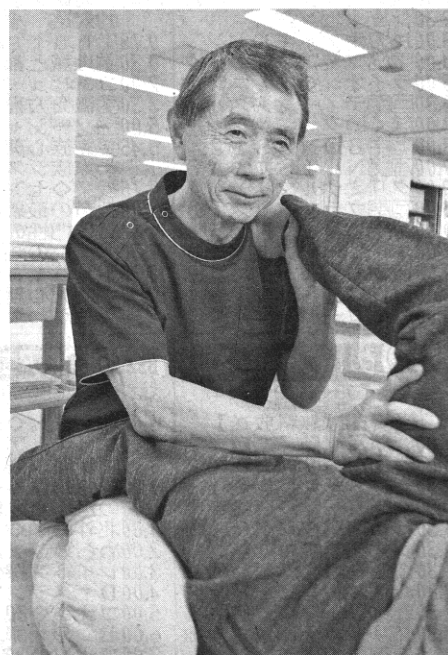
脳性まひ者の実態出版

理学療法士

前田勝彦さん 66

加齢に伴い、神経症状・関節変形や脱臼などが起きやすくなる脳性まひ者の「二次障害」に対する訓練や予防に深く関わってきた。「今までやってきたことを認めてもらえたようで、とてもうれしい」と受賞に頬を緩める。

働きながら日本福祉大社会福祉学部第2部を卒業、さらに川崎リハビリテーション学



長年、脳性まひ患者を支えてきた前田さん

院(岡山県)で学び、1981年に理学療法士の資格を得た。以後37年間、一般病院や子ども診療所で地域のリ

「福祉の現場には、医療の手が届いていない人が少なくない。福祉と医療の橋渡しになれば」とほほ笑んだ。

環として2007年から毎週月々土曜、近くの高齢者らを自宅に集め、運動機能向上の体操教室を開いている。「自分も運動しないとね。教えることで健康をもらっている」と笑顔を見せる。柔道四段。接骨院に併設する柔道塾「尚勇館」と地元中学で始めた「八王子柔道教室」で、青少年らを指導している。

ハビリテーション医療に従事してきた。二次障害について、前田さんは「体を動かすことを頑張り過ぎてしまう人ほど起きやすい。一人一人に合った予防法が大切だ」と語る。2013年には、脳性まひ者412人の実態調査をまとめた「ライフノート」を、整形外科専門医の万歳登茂子さんと共に出版。現在も、県内の医療機関・社会福祉施設などで、患者・利用者の障害予防などに尽力し続けている。